

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和5年度	会計コード	10	一般会計	事業コード	38400
事業名	救急安心都市さっぽろ推進費					
評価担当課	所 属	消)警防部 救急課			電話番号	011-215-2070
施策名	強じんな消防・救急体制が構築され、市民の安全・安心が守られて					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外					
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費			○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理費		
	● 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助・助成 ○ その他					

事業内容	事業の背景(現在の状況、社会的課題)	都市構造・人口分布の変遷等に伴い地域や時間、季節的な需要等傾向が複雑化しており、配置された隊が出払った地域に遠方の隊が出動する等で現着時間が延伸していることに加え、高齢化に伴う基礎的な需要が増加を続ける環境の中、搬送困難事案増加等により現場から動けなくなる隊が増え、出動可能救急隊が枯渇した上、さらなる救急要請に対し出動指令を保留する事態まで発生している状況であり、有識者会議からの提言「救急要請の一時的な集中に重点を置いた搬送体制の強化が必要」のとおり、隊増強とともに、隊の運用効率化を実現するシステム構築及び部隊最適配置の必要性が生じている。
	事業内容(何を実施し)	①救急活動DX化として救急隊アプリを導入し、医療機関との情報共有を迅速化することにより、現場滞在時間短縮を図る。令和5年度に資器材の整備とアプリの導入を実施し、本運用を開始している。 ②市内で救急需要が高く地理的に効率的に対応できる地域に救急隊を増強整備する(令和6年度)。 ③救急需要予測調査研究を行い、AIを活用して救急隊の最適配置(短期的・長期的)のシミュレーションを実施、科学的な予測に基づき既存の隊の地理的・時間的に効果的な再配備を目指す(令和6年度はAITセンターと共同研究予定)。 令和5年10月に市内35隊全てにモバイル端末等の救急DX資器材を配置し、令和6年2月19日より本運用を開始した。
	どのような状態にしたい(状態を維持したい)	救急需要の増加により部隊数が不足し、市民からの救急要請に即時対応できない事態が令和3年及び4年に複数回発生したことから、救急隊を増強し、DXの推進及び救急需要予測による救急隊配置最適化により救急隊の運用効率を高め、市民がより速やかに適切な救急医療を受けられる仕組みを目指す。
	他都市の状況	東京消防庁や横浜市、名古屋市、福岡市などでは、救急隊の増強や救急需要予測(横浜市では横浜市立大学との共同研究による分析を、名古屋市ではAIを用いた最適配置の分析を行っている。)に取り組み、増大する救急需要への施策等に反映している。DXは千葉県や東広島市において実運用を開始している。
	市民参加の実施	■ 企画 □ 実施 ■ 評価 □ 対象外

令和4年度決算額	66,241 千円	うち特定財源	44,148 千円	正規職員業務量	1 人工
令和5年度予算額	48,000 千円	うち特定財源	0 千円	正規職員業務量	1 人工
令和5年度決算額	38,108 千円	うち特定財源	0 千円	正規職員業務量	1 人工
令和6年度予算額	69,000 千円	うち特定財源	39,000 千円	正規職員業務量	1 人工

指標	アウトプット活動指標1	救急DXを導入した救急隊の増加				という活動、業務を行うことで	
		令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定
		0隊	35隊	35隊	36隊		
	↓						
	アウトカム成果指標1	救急要請の集中により出動可能救急隊数がゼロとなった日数				という状態にしたい、成果を挙げたい	
		令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定
		13日	0日	35日	0日	0日	0日
	指標1の評価、未達理由、今後の考え方	DX化、救急隊増隊、救急需要予測による部隊運用効率化を運用、実施する前に季節的に急増した救急需要に対応できず、出動可能救急隊数がゼロとなる日が発生した。					
	アウトプット活動指標2					という活動、業務を行うことで	
		令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定
	↓						
	アウトカム成果指標2					という状態にしたい、成果を挙げたい	
		令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定
	指標2の評価、未達理由、今後の考え方						

今年度の見直し内容	救急隊を1隊増隊するとともに、長期的期間における救急需要予測の研究により救急隊の配備計画を検討予定
来年度以降の方向性	DX化については現状維持、救急隊の増隊については拡大を検討、救急需要予測については短期的期間における需要予測研究による救急隊の最適配置を検討することにより、救急隊のさらなる運用効率化を目指す。